

# 千西一遇

第65号  
発行  
2020年  
7月20日(月)  
校  
高  
西  
上  
新  
聞  
委  
員  
会  
編  
集  
局  
編  
集  
局  
長  
・  
松  
木  
萌  
愛  
堀  
内  
日  
菜  
子  
西  
入  
菜  
々  
香  
橋  
爪  
こ  
こ  
菜



日比谷音楽祭のロゴ(上)と昨年の様子(下) 写真:日比谷音楽祭HPより

# コロナ禍に挑戦するライブエンターテインメント

## 亀田誠治さん 多様化していく音楽の「形」模索

5月23日(土)、24日(日)に行われたオンライン取材会に参加しました。この取材会では、落語家の笑福亭たまさん、音楽プロデューサーの亀田誠治さんをゲストに迎え、新型コロナウイルスが落語や音楽に与える影響などについて全国の高中生が取材を行いました。編集局ではコロナ禍に挑戦するライブエンターテインメントについてまとめました。

## With コロナの音楽活動 今年度の日比谷音楽祭は開催中止

現在、「新型コロナウイルス」が世界中で猛威を振るっており、音楽業界にも深刻なダメージを

与えている。「三密」を避けて日常生活を送らなければならぬため、ライブ会場、コンサート会場で行われる音楽イベントはほぼ全て中止または延期になっており、音楽活動が停滞している。

### 日比谷音楽祭

東京のセントラルパーク、日比谷公園で開催する、「フリーで誰もが参加できる、ボーダーレスな音楽祭」。さまざまなボーダーからの解放、親子、孫、世代を超えて音楽を楽しめることなどをコンセプトに掲げている。



また、昨年2日間で10万人を動員し今年も開催予定だった「フリーで誰もが参加できる、ボーダーレスな音楽祭」がテーマの日比谷音楽祭もコロナウイルスの影響を受け、残念ながら中止となりました。来年も通その時の社会状況に応じて開催の可否は変わってきてしまいうだろう。

### サザン 無観客ライブ開催

先日、国民的ロックバンドである「サザンオールスターズ」が横浜アリーナを貸し切り、無観客有料ライブを行った。そこ

では、手拍子の音声や歓声などを流し、あたかも観客がいるかのような演出や、客席の天井で巨大なミラーボールを回し、客席にダンサーが入って賑やかに踊ったり、カメラも縦横無尽に動き、オンラインだからできる演出をこれでもかと行った。

そのためには発信する人・利用者ともにオンライン・テクノロジーに対するリテラシーを持つことが重要である。これから多様化していくであろう音楽の形。アフターコロナの音楽業界ではどのような形になっているだろうか。(堀内日菜子)



音楽プロデューサーの亀田誠治さん 写真=音楽ナタリーHPより

### 亀田 誠治 (かめだ せいじ) プロフィール

1964年6月3日 生まれ 音楽プロデューサー、作詞家、作曲家、編曲家、ベーシスト。早稲田大学第一文学部卒。これまでに椎名林檎(編曲)、平井堅・スピッツ・GLAY・Do As Infinity・いきものがかり(編曲・プロデュース)、JUJU(作詞・編曲・プロデュース)、大原櫻子(作詞・作曲・編曲・プロデュース)など、数多くのアーティストやアイドル、女優などのプロデュースやアレンジなどを手がける。第49回(2007年)・第57回(2015年)日本レコード大賞で編曲賞を受賞。2019年には「フリーで誰もが参加できる、ボーダーレスな音楽祭」をコンセプトに日比谷音楽祭を開催。実行委員長を務める。 ※ウィキペディアより抜粋

## オンライン有料配信を計画

取材会の中で、亀田さんは「コロナウイルスの影響で外出ができない今、未来の音楽はどうなるのか」という質問に対し「現在、音楽の力でみんなを勇気づけるために、アーティストが自主的にSNSに動画を投稿している」と話した。しかしSNSに投稿するだけでは裏方のスタッフにお金が

渡ることは無い。有料で無観客配信をすれば、アーティストはもちろんスタッフにお金も回るようになる。亀田さんは「アーティストの自主的な投稿は第一段階。第二段階として、有料配信を行うことを考えている」と続けた。

## 生演奏を披露



取材会で生演奏を披露する亀田さん 写真=YouTubeより

取材会の中盤、亀田さんは生演奏を披露した。曲目は「上を向いて歩こう」。

マイナスイメージを考

## 成功の裏には強い意志

亀田さんは椎名林檎・平井堅などの著名なアーティストの作詞作曲を手掛ける音楽プロデューサーとして活動し、プロデューサーとして日本レコード大賞を二度受賞するなど、素晴らしい活躍を見せている。また、それだけにとどまらず、2003年から活動しているバンドである「東京事変」のベーシストとしても活躍しており、一度はバンドとしての活動を休止したものの、今年復活を遂げている。

「子供の時から音楽が大好き、プロになる！」と決めており、その強い意志が成功へ導いてくれたのか、大学を卒業する頃から自作のデモテープがオーディション各賞を総なめするようになった。

「成功の裏には強い意志」と決めている。その強い意志が成功へ導いてくれたのか、大学を卒業する頃から自作のデモテープがオーディション各賞を総なめするようになった。自分の夢を叶えるためにここまで努力し続けるのは、並大抵の気持ちでは務まらない。亀田さんのように優れたプロデューサーになるためには才能も必要かもしれないが、それ以上に自分に負けない強い意志を持ち、さらに努力も積み重ねてきたからこそ、今こうして活躍できているのだ。(堀内日菜子)

# 笑福亭たまさん ネット活用生の感覚大事に

## 上方落語と江戸落語 言葉に違い

落語家の笑福亭たまさんに取材を行った。落語の魅力は「場を共有して一緒に笑えること」と「それを通して一つになれること」と話したたまさん。

落語は上方(江戸時代に京都や大阪を始めとする畿内)と江戸では違いがあり、上方は道端で、江戸はお座敷でそれぞれ始まった。上方の落語のほうが派手で盛り上がりと言われている。江戸は人情話、上方はギャグ話がメイン。また、江戸落

語でも面白い話のルーツは大阪が多いそうだが、江戸落語はギャグがなくてもストーリーが成り立つが、ギャグを抜くとストーリーが成り立たないのが上方落語だ。

江戸時代、明治時代から現代と上方落語は現在も使われている大阪弁を使用する。しかし江戸落語は江戸時代の言葉遣いと現代落語の言葉遣いの二つの言葉を使い分けなければならぬ。「江戸落語は現在も使われない

当時の江戸っ子が使っていた言葉を使うので、表現の仕方が間違っていないのも誰か気付かない。しかし、上方落語は江戸時代から同じ言葉を使っているの間違っていた言葉を使うと気がついてしまう。だから、難しい」とたまさんは話した。江戸落語と上方落語には様々な違いがあることがある。たまさんはさらに、「紫式部は関西人と話し、日本の文化は関西発祥であると続けた。」(橋爪ここ菜)



落語家の笑福亭たまさん 写真=上方落語家名鑑より

### 笑福亭たま(しょうふくてい たま) プロフィール

京都大学経済学部卒  
 平成15年大阪舞台芸術新人賞、平成16年文化庁芸術祭新人賞、平成20年5月第2回繁昌亭輝き賞、平成21年第4回繁昌亭創作賞、平成22年咲くやこの花賞、平成23年なにわ芸術祭新人賞、平成24年第7回繁昌亭爆笑賞受賞ほか  
 主な会は「月刊笑福亭たま」「笑福亭たま独演会」  
 ※上方落語名鑑より抜粋

## 自粛期間 アフターコロナを見据え準備

新型コロナウイルスが世界的に蔓延し日本も緊急事態宣言を発出する事態に至った。落語界にも影響は大きく公演等が中止になるなど自粛を余儀なくされてしまった。この自粛期間中、たまさんは趣味の漫画やゲームをして過ごしていたという。「漫画は色がなく白黒なのでストーリーが頭に入りやすい」と話していたたまさん。自粛によるストレスはあまりなく、師匠の家での修行期間のほうがストレスだったと話す。「学校は校則やルールがあり、それを守って生活していれば良いが落語の修行期間はルールがなく、〇〇したらいけないという決まりはないが、師匠からの



中高生の質問に答える笑福亭たまさんの様子 写真=YouTubeより

信用を失ったら落語をやめなきゃいけない」と修行を振り返った。コロナ期間中はコロナ明けのように活動していくかについて考え準備をしていたそうだが、今までのプロレスや相撲や落語などのライブエンターテインメントはネットに力を入れなくても多くの集客が見込まれていた。しかし、新型コロナウイルスの感染が広まって、感染拡大を防止するため多くの人が集まるイベントができなくなってしまう。このため、収入を得るためにはネットに力を入れざるを得ない状況が自然と生まれた。

「ライブができないからネットをやっている人と、コロナウイルスが終息したあともネットもしようとしている人とは動き方が変わってくる」とたまさんは話す。

オンライン取材会で使用したアプリ、「Zoom」は、双方向のコミュニケーションを可能にする。他にも沢山のライブ配信アプリがある、例えば「YouTube」もメジャーなアプリである。しかし、よりライブのような空気を味わえるのは、「Zoom」だ。「ライブエンターテインメントは生のものなので表現者と観客が同じ空気を吸っている。それに近いことが「Zoom」のほうがいい。」「YouTube」は編集ができ、綺麗に見せることができる。しかし見る側はいい加減に見える」と話し、ライブ配信アプリと用途によってどう付き合っていくかということを考えていることが伺えた。たまさんはすでにオンラインでの落語配信を先月から始めており、明後日23日(木)にもオンライン独演会を実施予定だ (橋爪ここ菜)



落語で使用される小道具である扇子と手拭い 写真=オズモールHPより

### 小道具

## 扇子と手拭いを用い 全てを表現

落語では小道具として扇子と手拭いが使われる。この

二種類の小道具で表現をすることはルールであり、なぜこの二種類なのかという理由は主に二つある。一つは昔みんなが持っていたものだったからだ。扇子は固く、手拭いは柔らかいため使い勝手が良く様々なものを表現するのに最適だ。一つ目は私たちが普段あまり使わないものだからだ。着物を着る理由も同様で、



扇子で盃を表現する様子 写真=マイナビニュースHPより

例えば、お父さんからお母さんに瞬時に切り替えるとき、スーツを着ていたお母さんだと判断するのが難しい。



笑福亭たまさんの師匠であり人間国宝の桂米朝さん 写真=HPより

取材会中、「落語を通して伝えたいこと」は?という質問に「お客さんを楽しませたい」と答えた笑福亭たまさんはいつも「お客さんを楽しませたい」と一緒に楽しみたい」という気持ちで舞台に上がっているという。たまさんはお客さんに笑ってもらうために様々な工夫をしており、実際に古典落語の演目の一つである「壺算」というお話では、師匠である桂米朝師匠とたまさんの表現の仕方に違いがあった。たまさんは「同じ表現

## 意外性で図る差別化「お客さんを楽しませたい」

方法だった桂米朝師匠の落語を見ればいいと思うのでは?とお客さんの立場で考え、意外性を求め他の落語家や師匠とは違う笑わせ方でお客さんを笑わせようと考えた。そのため他の人の舞台を見て勉強し自分の表現に生かしていくのだという。

たまさんは表現をする上で本当に心が通じ合っているのか不安だったが「嘘笑いにはあっても嘘爆笑はない」笑っているときは心が通じ合っている気がすると話した。公演後にはお客さんにうまく伝わらなかつた部分を見直し改善する。失敗を受け止めお客さんの気持ちになって考えることが大切だと話した。(松木萌愛)

くなる。しかし着物を着ることにより瞬時に役を切り替えることが可能になる。一人でお話を表現する落語は何役も一人で行うためこのような工夫がある。

しかし落語家の中には人形や横造紙、またすき焼きを食べながら行われる落語もある。ここで意外性が生まれ、もう一度見たときには楽しみに変わるといいます。たまさんは「ルールを破る楽しさをつくるために扇子と手拭いを使う」と話していた。(松木萌愛)